

ちついているような印象を持ったが、何年後かに始まる次世代の放射光実験施設の利用が、これと同じ効果を引き起こすであろうと期待し、今後の学会の発展に思いを馳せた次第である。

次に他のアジアの国々からの参加者による発表に関して受けた印象について述べる。それは、放射光の利用により更に良いデータを得る事ができると思われるものが、幾つかあった事である。この事は、放射光利用に対して地理的・時間的に不便さを感じていた私に、彼等に比べれば非常に恵

まれた環境にいるという極めて当り前の事を再認識する場を与えてくれた。近ごろは、放射光の恩恵を初めて受けた時の感動を忘れていたが、本会議に参加した事は、私にとって放射光実験に対する姿勢を見直す機会とも成った。

最後は、本会議に参加する際に「発表のための練習」を怠り「練習のための発表」をしてしまったために、他の参加者に損害を与えた事を深く反省し、またこのような拙文を書く機会を与えて下さった方々へ感謝したいと思います。

## ◀研究会報告▶

### 第10回PFシンポジウム報告

実行委員長 柿崎 明人 (東京大学物性研究所)

昨年12月4日、5日の両日、第10回PFシンポジウムが高エネルギー研究所で同放射光実験施設とフォトンファクトリー懇談会の共催で開かれた。昨年はフォトンファクトリーの放射光発生10周年にあたり、PFシンポジウムは10周年記念シンポジウムの後で開催されることとなった。このため日程も1日半とし、プログラムも記念シンポジウムで取り上げられる話題と重複しないよう配慮したものとなり、従来のシンポジウムとは若干趣の異なるものとなった。参加登録人数は206名であった。

初日のプログラムは、

#### (1) 施設報告

#### (2) ポスターセッション

#### (3) PF懇談会報告、同窓会

#### (4) 親睦会

である。放射光施設の現状と将来については、既に記念シンポジウムで一部報告されていたため、予定よりもかなり短い期間で終わり、ポスターセッションは予定よりも早くスタートした。PF懇談会報告、同窓会の後の親睦会はポスターセッションの会場で行われた。参加者は比較的少なかつたもののポスターを前にして議論するなど、親睦だけでなくサイエンスの議論の場となることができ有意義であったと思う。

2日目のプログラムは、

- (1) MRの放射光利用計画
- (2) ポスターセッション2
- (3) ポスターレビュー
- (4) PFリングの高輝度化計画
- (5) PFリングの高輝度化計画にともなうビームラインの対応

であった。

MRの放射光利用に関しては、その有用性が以前から指摘され、試験的な研究も既にいくつかスタートしており、利用計画も本格的な検討の時期に入っている。しかし、MRの放射光利用を取り巻く環境は必ずしも明瞭ではなく、今後、MR利用検討委員会で様々な問題が議論されることとなった。

ポスターセッションでは、2日間で126件の発表が行われた。今回は、ポスターセッションの時間を初日、2日目ともに2時間とし、ポスターレビューの時間を設けることにした。レビュアーにはVUV、X線分光、X線回折の三分野についてそれぞれ、福谷（筑波大学）、石川（東京大学）、大柳（電総研）の三人の方々をお願いした。ポスターで発表されたそれぞれの研究分野の動向と、今後の発展の方向について話していただくと共に、特に目立った発表についても話していただいた。実行委員会側の勝手な申し出にも係わらず、快く引受けていただいた三人の方々にお礼を申し上げる。

PFリングの高輝度化計画と、それにとまなうビームラインの対応については、高輝度化をする場合の具体的なスケジュール、高輝度化によるメ

リット、デメリットが示され、活発な議論が続いた。PFリングの高輝度化は長期のシャットダウンを伴うため、ユーザーに真剣に受けとめられたためであろう。メリットが多いのなら早くやるべきだ、長期のシャットダウンはこまる、具体的なスケジュールがはっきりしないうちは対応できない、PF執行部のリーダーシップが大切だ、等の意見があった。同時に、アジアの各国が第三世代の放射光施設を持つようとしている今の状況で、PFの取るべき方向についても様々な意見が出された。この問題は高輝度化対応委員会で検討されることになった。

今回のPFシンポジウムは、一日半の日程で行われたためにScientific Programが少なく、プログラムが充実していたとはいいがたい。それにもかかわらず、多くの方々の参加を得て何とか無事終わることができた。これはひとえに、各セッションの世話人、PFスタッフ、シンポジウム参加者各位の御協力のおかげである。心からお礼を申し上げます。

今回のPFシンポジウムの実行委員会のメンバーは以下の通りである。

実行委員長	柿崎明人（東大物性研）
実行委員 庶務	河田 洋（PF）
庶務	繁政英治（PF）
プログラム	石川哲也（東大工）
会場	岸本俊二（PF）
会計	難波秀利（東大理）